

丹鶴叢書

草根集  
五

093.1

2006

佛教大学図書館



2005494798





草根集第五

次第不同

秋部



立秋朝 新鳥の梢よむさびしく秋のうらま  
 山 月 かなしのささるるもやうらま秋のよ月  
 暮秋鳥 ちよよと翔るやうらま秋のよ鳥の羽  
 萩 風 さのかなしきもやうらま秋のよ萩の香  
 外山鹿 お山のうらまのうらま秋のよ鹿の角  
 曉擣衣 枝やを<sup>の</sup>もむる秋の甲入<sup>の</sup>もむる秋のよ衣  
 虫 ちよよとばらばら秋のよ虫のうらま秋のよ虫  
 秋 夕 ちよよとばらばら秋のよ夕のうらま秋のよ夕

七夕月 宵のふ後へく月の舟をせまむかへん天の川あり  
 七夕煙 夕匂くを早もすりかゝるゝのけりあはれ  
 七夕柏 露むすむすのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ  
 七夕濱 たこさよふ早雲の清き水もどくは雲の浄火  
 七夕竹 玉は早もすりかゝるゝのけりあはれ  
 七夕芦 くちあし早もすりかゝるゝのけりあはれ  
 七夕硯 早のむすむすのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ  
 薄 風あはれ秋の清き水もどくは雲の浄火  
 早治知秋 いづれに水にけりあはれ  
 千雀

萩風 下萩の上のこゝろのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ  
 月前萩 月のこゝろのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ  
 庭萩 木立のこゝろのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ  
 深夜聞萩 おもひのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ  
 秋夕 くのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ  
 秋夕露 秋のこゝろのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ  
 かゝるゝのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

秋夕傷心 と美本の同上  
 浦秋夕 と美本の同上  
 山家秋夕 と美本の同上  
 稻妻 と美本の同上  
 霧 と美本の同上  
 曙山霧 と美本の同上  
 秋宮霧 と美本の同上  
 月 と美本の同上

と美本の

三日月 と美本の同上  
 上弦月 と美本の同上  
 八月十五夜 と美本の同上  
 立秋曉 と美本の同上  
 萩 と美本の同上  
 野萩 と美本の同上  
 萩風驚夢 と美本の同上

丹鳥長史書

藤 露 白くはるかに霞の空を渡る月  
 秋の夕暮は静かに空を渡る月  
 望 秋 秋の夕暮は静かに空を渡る月  
 庚申七夕 庚申の夕暮は静かに空を渡る月  
 閏月七夕 たまに夕暮は静かに空を渡る月  
 七夕川 早の秋の夕暮は静かに空を渡る月  
 七夕提 いづれも夕暮は静かに空を渡る月  
 七夕鹿 我中の夕暮は静かに空を渡る月  
 薄似袖 夕暮は静かに空を渡る月  
 小川の社 夕暮は静かに空を渡る月

小川の社

原 薄 夕暮は静かに空を渡る月  
 初 鴈 夕暮は静かに空を渡る月  
 嶺初鳥 夕暮は静かに空を渡る月  
 立秋風 秋の夕暮は静かに空を渡る月  
 早 秋 秋の夕暮は静かに空を渡る月  
 幽居萩 夕暮は静かに空を渡る月

海邊萩 浪をいれ入の穂もさきほのさきよせり萩のほろせ  
 夕萩 夕萩よ萩もほろほろのほろほろのほろほろ すし葉一本  
 夕野萩 萩萩のほろほろのほろほろのほろほろ 尻葉  
 初秋 一葉も一葉もさきほのさきよせり萩のほろほろ 葉  
 夕薄 夕薄のほろほろのほろほろのほろほろのほろほろ 葉  
 薄未出穂 村のほろほろのほろほろのほろほろのほろほろ 葉  
 鹿 鹿のほろほろのほろほろのほろほろのほろほろ 葉

子松

田 鹿 鹿のほろほろのほろほろのほろほろのほろほろ 葉  
 叢 虫 虫のほろほろのほろほろのほろほろのほろほろ 葉  
 深夜聞虫 虫のほろほろのほろほろのほろほろのほろほろ 葉  
 月前露 露のほろほろのほろほろのほろほろのほろほろ 葉  
 月前雲 雲のほろほろのほろほろのほろほろのほろほろ 葉  
 月前草花 花のほろほろのほろほろのほろほろのほろほろ 葉  
 月前草 草のほろほろのほろほろのほろほろのほろほろ 葉  
 月前鴨 鴨のほろほろのほろほろのほろほろのほろほろ 葉  
 月前船 船のほろほろのほろほろのほろほろのほろほろ 葉

子鳥書

擣

夜

表七

夜 宵の光をみれば 秋の夜も長し

秋風は涼しき 草木の葉も黄く

秋の夕陽は 紅く染めて

庭菊

庭の菊は 秋の光を

菊露

菊の露は 秋の朝を

水邊菊

水邊の菊は 秋の風を

河邊菊

河邊の菊は 秋の波を

翫菊花

翫む菊花は 秋の心を

名所鶉

名所の鶉は 秋の野を

沢畔鴨

沢畔の鴨は 秋の池を

子鳥

秋田

秋田の秋は 涼しき

秋雨

秋雨は 秋の夜を

古屋蔦

古屋の蔦は 秋の空を

早秋風

早秋の風は 涼しき

初秋風

初秋の風は 涼しき

新秋雨

新秋の雨は 涼しき

新秋雨

新秋の雨は 涼しき

新秋雨

新秋の雨は 涼しき

新秋雨

新秋の雨は 涼しき

新秋雨

新秋の雨は 涼しき

萩似来 下萩の月夜を思ふ  
 萩の秋 萩の秋の夜を思ふ  
 萩映水 萩の秋の夜を思ふ  
 秋夕 萩の秋の夜を思ふ  
 霧 萩の秋の夜を思ふ  
 島霧 萩の秋の夜を思ふ  
 浦霧 萩の秋の夜を思ふ

子林

都早秋 萩の秋の夜を思ふ  
 待七夕 萩の秋の夜を思ふ  
 七夕暮 萩の秋の夜を思ふ  
 七夕歎 萩の秋の夜を思ふ  
 七夕猪 萩の秋の夜を思ふ  
 七夕熊 萩の秋の夜を思ふ  
 七夕書 萩の秋の夜を思ふ  
 七夕筏 萩の秋の夜を思ふ  
 行路薄 萩の秋の夜を思ふ

子鳥



田上 鳶 秋の空の如く 花の散る如く 秋の枝の如く  
 雲端 鳶 人の心も 秋の空の如く 花の散る如く  
 月前 雁 月月の光も 秋の空の如く 花の散る如く  
 雁 過 湊 あまの秋の如く 秋の空の如く 花の散る如く  
 古 郷 露 たゞの秋の如く 秋の空の如く 花の散る如く  
 秋 夕 いづれも 秋の空の如く 秋の空の如く 花の散る如く

河上 霧 舟の如く 秋の空の如く 花の散る如く  
 田上 霧 まるく 秋の空の如く 秋の空の如く 花の散る如く  
 早秋 朝 山 交る 秋の空の如く 秋の空の如く 花の散る如く  
 残 暑 かき 秋の空の如く 秋の空の如く 花の散る如く  
 寂 覚 秋 風 秋の空の如く 秋の空の如く 花の散る如く  
 萩 声 近 枕 秋の空の如く 秋の空の如く 花の散る如く

丹鶴齋

雨中秋ののきを後のたけむり玉おこし雲のひら  
 庭萩 一、美 志のよふ影よるは 一、美 のきさるるは 一、美 萩を指  
 閑居薄 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本  
 薄暮初雁 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本  
 外山鹿 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本  
 田邊鹿 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本  
 鹿交萩 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本  
 草花 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本  
 秋夕 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本  
 月前雁 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本

子祐

崎霧 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本  
 夕霧 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本  
 堤上霧 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本  
 浅茅露 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本  
 籬槿 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本  
 垣槿 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本  
 槿未開 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本  
 月 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本 萩 一本

萩の月の影よるは  
 萩の月の影よるは  
 萩の月の影よるは

十五夜月 昔よも光るまへん秋をそく名をまよひじよものを月  
 不知夜月 誰しを言ふらんか月の光のまよひの人の世の中  
 弓張月 ちよりの月を夫はなむも月并村昔の天のすらなる  
 擣衣何方 いつそんちよりの月を月をのちを擣衣  
 里擣衣 海をいづれに擣衣の里に村をいづれに擣衣  
 山鳥の村のまをの里に村をいづれに擣衣  
 夜擣衣 光の影をいづれに擣衣の影をいづれに擣衣  
 翫菊花 小菅くはをいづれに擣衣の影をいづれに擣衣  
 翫菊花 いろ秋よあつちよりの月を月をのちを擣衣

子松

九月九日 長月の夜をいづれに擣衣の影をいづれに擣衣  
 重陽宴 たるせうく日陰菊の九をいづれに擣衣  
 秋田雨 秋の田の夜をいづれに擣衣の影をいづれに擣衣  
 田家秋雨 ふるはに雨をいづれに擣衣の影をいづれに擣衣  
 山紅葉 ぬれぬれに雨をいづれに擣衣の影をいづれに擣衣  
 使人のまをいづれに擣衣の影をいづれに擣衣  
 暮秋霜 雪をいづれに擣衣の影をいづれに擣衣  
 早秋露 秋の露をいづれに擣衣の影をいづれに擣衣

千鶴集

櫻峰侍月 月 *shirayama no tsuki*  
 岡上月 月 *okami no tsuki*  
 野徑月 月 *noji no tsuki*  
 河上月 月 *kawami no tsuki*  
 海邊月 月 *umibe no tsuki*  
 湖月 月 *umi no tsuki*  
 田早秋 早秋 *tsuchi no aki*  
 田 *tsuchi*

初秋朝風 朝風 *shu-aki no ashi no kaze*  
 岡初秋 初秋 *okami no shu-aki*  
 月前萩 萩 *tsukinaki no hagi*  
 七夕後朝 後朝 *tanabata no ato*  
 七夕櫛 櫛 *tanabata no kushi*  
 七夕嶺 嶺 *tanabata no mine*  
 七夕旅宿 旅宿 *tanabata no tabi-yado*  
 七夕釈教 釈教 *tanabata no shakyo*  
 月 月 *tsuki*

山 月 よきの月かなしきせり 山月よきの月かなしきせり

山月よきの月かなしきせり

嶺 月 入りの月のせせの風 嶺月入りの月のせせの風

嶺月入りの月のせせの風

嶺月入りの月のせせの風

海上見月 ねむりの月の桂のまゆもほのぼの 海上見月ねむりの月の桂のまゆもほのぼの

秋村雨 老るも志しきもの 秋村雨老るも志しきもの

秋村雨老るも志しきもの

月満海上 けの原 月満海上けの原

秋山田 志直り 秋山田志直り

葛 風 山岸の松 葛風山岸の松

葛風山岸の松

秋夜長 せり 秋夜長せり

紅葉 赤 紅葉赤

暮秋風 涼 暮秋風涼

暮秋構衣 別 暮秋構衣別

初秋雲 夕 初秋雲夕

古寺月 古寺月

早秋萩風 梢 早秋萩風梢

初秋山 初秋山

田新秋

田新秋の月は

初秋薄

初秋薄の月杜英は

秋虫

秋虫の月杜英は

月前鈴虫

月前鈴虫の月杜英は

月前蝥

月前蝥の月は

遠村秋夕

遠村秋夕の月は

田上稻妻

田上稻妻の月は

山月明

山月明の月は

山月初昇

山月初昇の月杜英は

浦月

浦月の月は

沿月

沿月の月は

島月

島月の月は

江上月

江上月の月は

江月冷

江月冷の月は

花菜

花菜の月杜英は

丹鶴書

丹鶴書の月は

路頭月 次英

あきつきの月をいふはあきつきの月をいふ

独待月

ひとりまちをいふはひとりまちをいふ

夜待月

よまちをいふはよまちをいふ

閑見月

ひまをいふはひまをいふ

独見月

ひとりまちをいふはひとりまちをいふ

小鷹狩

こたかをいふはこたかをいふ

踈屋葛

すやをいふはすやをいふ

葛懸杏

くわをいふはくわをいふ

葛風

くわをいふはくわをいふ

出葛風

でくわをいふはでくわをいふ

秋霜

あきしもをいふはあきしもをいふ

野徑秋霜 英下

のぢをいふはのぢをいふ

尋紅葉 上ノ一本

ゆきをいふはゆきをいふ

滝紅葉 又英

たきをいふはたきをいふ

露染山葉

つゆをいふはつゆをいふ

子鳥書

庭紅葉 風をよめるのさかしくもあまの村のあけ  
 渡紅葉 あけをよめるのさかしくもあまの村のあけ  
 遠村紅葉 吹あけよめるのさかしくもあまの村のあけ  
 秋欲暮 ながるのさかしくもあまの村のあけ  
 暮秋霧 くもりたる秋のさかしくもあまの村のあけ  
 暮秋菊 くもりたる秋のさかしくもあまの村のあけ  
 暮秋露 ながるのさかしくもあまの村のあけ  
 泊暮秋 ながるのさかしくもあまの村のあけ  
 早秋 ながるのさかしくもあまの村のあけ  
 初秋扇 ながるのさかしくもあまの村のあけ

秋露 滋 秋のさかしくもあまの村のあけ  
 秋雲 ながるのさかしくもあまの村のあけ  
 秋河 ながるのさかしくもあまの村のあけ  
 秋岡 ながるのさかしくもあまの村のあけ  
 秋楨 ながるのさかしくもあまの村のあけ  
 秋木 ながるのさかしくもあまの村のあけ  
 雲外雁 ながるのさかしくもあまの村のあけ  
 水郷雁 ながるのさかしくもあまの村のあけ  
 馬上馬 ながるのさかしくもあまの村のあけ  
 遠山初馬 ながるのさかしくもあまの村のあけ



霧中雁

霧の中を雁は渡る  
霧の中を雁は渡る

海邊鹿

海邊の鹿は静かに  
海邊の鹿は静かに

淡路の海は静かに  
淡路の海は静かに

志摩の海は静かに  
志摩の海は静かに

海霧

海霧は静かに  
海霧は静かに

志摩の海は静かに  
志摩の海は静かに

深夜見月

深夜の月を静かに  
深夜の月を静かに

志摩の海は静かに  
志摩の海は静かに

見月傷心

見月を静かに  
見月を静かに

深山見月

深山の月を静かに  
深山の月を静かに

對月待客

對月を静かに  
對月を静かに

独對月

独對月を静かに  
独對月を静かに

暗夜月

暗夜の月を静かに  
暗夜の月を静かに

秋月

秋月を静かに  
秋月を静かに

月前風

月前の風を静かに  
月前の風を静かに

志摩の海は静かに  
志摩の海は静かに

淡路の海は静かに  
淡路の海は静かに

月前煙

月前の煙を静かに  
月前の煙を静かに

秋夕

秋夕を静かに  
秋夕を静かに

月

月を静かに  
月を静かに



月忘憂 身のうらもしりては月のかみなるか  
 夕 月 福くしむるもあはれは月のかみなるか  
 雨後月 住まぬけは月のかみなるか  
 水郷月 あまの月のかみなるか  
 羈中月 あまの月のかみなるか  
 旅泊月 住まぬけは月のかみなるか  
 舟中月 住まぬけは月のかみなるか  
 滝邊残月 住まぬけは月のかみなるか  
 古寺残月 住まぬけは月のかみなるか  
 有明月 住まぬけは月のかみなるか

子松

湖上鳥 くのりては月のかみなるか  
 寐覚虫 あまの月のかみなるか  
 擣衣 少衣は月のかみなるか  
 擣衣近 かき衣は月のかみなるか  
 遠村擣衣 衣は月のかみなるか  
 擣衣出 衣は月のかみなるか

田家擣衣 むかしの稲葉をまきし月をみればのいさふ衣は  
 名所擣衣 かみねのこころをいかにせんよももあふ衣は  
 老對菊 秋をくつり菊のよももあふ衣は  
 秋時雨 ほろほろと秋のまよふ時雨のいさふ衣は  
 風告秋 秋のまよふ風を告ぐ秋のいさふ衣は  
 残暑 残暑の衣をつせ思ふ衣は  
 萩風 萩の風をいかにせんよももあふ衣は  
 隣撞 一枝のまよふ隣をいかにせんよももあふ衣は  
 秋獸 妻やうつ外独のいかにせんよももあふ衣は

秋雨 秋の雨をいかにせんよももあふ衣は  
 遠村秋夕 遠村の秋夕をいかにせんよももあふ衣は  
 古御露 古の御露をいかにせんよももあふ衣は  
 月下杵 月下の杵をいかにせんよももあふ衣は  
 月下猿 月下の猿をいかにせんよももあふ衣は  
 外山月 外山の月をいかにせんよももあふ衣は  
 月前霧 月前の霧をいかにせんよももあふ衣は  
 暮秋 暮の秋をいかにせんよももあふ衣は  
 秋天象 秋の天象をいかにせんよももあふ衣は

駒 迎 あはれやうり約  
 秋 夕 ゆづる  
 幽 栖 秋 采 らせは  
 薄 あはれ  
 初 鴈 あはれ  
 擣 衣 出 せ  
 萩 如 錦 唐  
 行 路 薄 不

叢 虫 あはれ  
 閑 月 あはれ  
 月前虫 あはれ  
 暮 秋 曉 月 あはれ  
 海 邊 月 あはれ  
 槿 花 あはれ  
 野 徑 月 あはれ  
 月前聞鹿 あはれ  
 杜 紅 葉 あはれ  
 擣 衣 あはれ

立秋風 たかきふちのこころをさす  
 稲妻 早はるくはるのちかき  
 見山月 しのびゆく月影の  
 里擣衣 しのぶ衣の甲か  
 秋 田 林のうしろの  
 菊籬月 志のうしろの  
 秋夕雨 村のうしろの  
 嶺 月 信人か  
 十三夜月 神のうしろの

惜 月 たかきふちのこころをさす  
 新秋雲 己は同じく  
 萩似人來 しのびゆく  
 秋 夕 あはれゆく  
 新秋雨 天降風林昔一本  
 夜 萩 福のうしろの  
 余居秋風 あはれゆく  
 残 月 しのびゆく  
 雁随風集 しのびゆく  
 露 更なる月影の

擣衣 きねの原をきく 暮秋時雨 きふあき 見月 みづき 秋鳥 あきとり 月前鶴 つきさきつる 江月冷 えつきひや 江月 えつき 田家秋霜 でんかあきしも 暮秋虫声 きふあきむしこゑ

初秋 はつあき 萩露 はぎつゆ 夕萩 ゆふはぎ 闲居秋風 けんこあきかぜ 廣沢池眺望 ひろさわいけていぼう 嶺上月 みねのつき 河上月 かほのつき 虫 むし 嶺紅葉 みねのあかばな 野秋夕 のあきゆふ

草庵月 月とては危むるも古の松をよみむるの松の抱く  
 浅茅露 秋涼を露はかしくはつちのまはるるの松の抱く  
 田家秋風 ささけつたかきよき松葉をかきまわすの秋風  
 風動野花 花房まきつたかきまわすの秋風  
 秋 月 老るる松の葉の秋の月をよみむるの松の抱く  
 寐所月 くらもあつた床のよき松の葉の秋の月をよみむるの松の抱く  
 月前雨 かきまわす月の名の松の葉の秋の月をよみむるの松の抱く  
 初紅葉 夕日影をよみむる松の葉をよみむるの秋の月をよみむるの松の抱く  
 早秋曉露 い甲の露をよみむる松の葉をよみむるの秋の月をよみむるの松の抱く

松

冬部 次第不同

初 冬 神宮の松の葉をかきまわすの秋の月をよみむるの松の抱く  
 嶺上初雪 乙巳の松の葉をかきまわすの秋の月をよみむるの松の抱く  
 歳 暮 くらもあつた床のよき松の葉の秋の月をよみむるの松の抱く  
 初時雨 ささけつたかきよき松葉をかきまわすの秋風  
 落 葉 山の上の松の葉をかきまわすの秋風  
 寒 草 寒かきよき松の葉をかきまわすの秋風  
 枯野篠 こもあつた床のよき松の葉の秋の月をよみむるの松の抱く  
 寒 松 ささけつたかきよき松葉をかきまわすの秋風  
 霜 下りてはかきよき松の葉をかきまわすの秋風



袖氷重夜

ゆきあふみよりのこもり

千鳥

ちどりちどりのさえずり

水鳥

みづとりみづとりのさえずり

霰

あられあられのこぼれ

雁鳥

かりかりのさえずり

向爐火

むかしの火むかしの火

炭竈

すすすすのいし

神樂

かみかみのうた

袞

かみかみのうた

佛名

ぶつぶつのな

冬天

ふゆふゆのあめ

冬風

ふゆふゆのかぜ

冬雲

ふゆふゆのくも

冬雨

ふゆふゆのあめ

冬山

ふゆふゆのやま

冬湖

ふゆふゆのうみ

冬澗

ふゆふゆのたに

冬田

ふゆふゆのり

冬木

ふゆふゆのき

冬

冬草 ふゆぐさ 冬鳥 ふゆとり 冬虫 ふゆむし 初冬 はつふゆ 初冬朝 はつふゆあさ 時雨 ときあめ 時雨昔冬 ときあめむかしふゆ

冬草

洛初雪 らくしゆせ 落葉 らくえつ 夜落葉 よらくえつ 落葉混雨 らくえつまじりあめ 落葉霜 らくえつしも 落葉掩水 らくえつおほい

寒草 葛つるつる草の葉のゆけ

はち原の草の葉のゆけ

ぬき草の葉のゆけ

寒草 処の古里の草の葉のゆけ

寒草 纒の草の葉のゆけ

千鳥 草の葉のゆけ

草の葉のゆけ

草の葉のゆけ

江千鳥 草の葉のゆけ

岸千鳥 草の葉のゆけ

夜水鳥 草の葉のゆけ

草の葉のゆけ

草の葉のゆけ

江水鳥 草の葉のゆけ

池水鳥 草の葉のゆけ

夕木枯 草の葉のゆけ

庭残菊 草の葉のゆけ

江寒芦 草の葉のゆけ

寒樹文松 草の葉のゆけ

草の葉のゆけ

推柴 山原の松を切つて薪にする

推柴霜深 冬は霜が降りて薪にする

霜 白牡丹の葉を霜で乾かす

水路氷 冬は水路が凍る

井氷 春は井の水が凍る

池上氷 冬は池の上が凍る

丹鳥井の氷は冬に凍る

池上氷 冬は池の上が凍る

丹鳥井の氷は冬に凍る

丹鳥井の氷は冬に凍る

冬月 天は同じく月夜は同じく

早は冬月夜は同じく

冬は冬月夜は同じく

霰 あつちの雪は冬に降る

冬は冬月夜は同じく

冬は冬月夜は同じく

初雪 冬は冬月夜は同じく

遠山初雪 冬は冬月夜は同じく

月前雪 冬は冬月夜は同じく

暮山雪 冬は冬月夜は同じく

網代真 後  
 月照網代 月照に  
 雨中網代 田中  
 狩場嵐 狩場  
 狩場雪 狩場  
 狩場電 向  
 向爐火 向

外山炭竈 炭  
 神樂 神  
 遊早梅 遊  
 歳暮念 歳  
 老人惜歳 老  
 初冬嵐 初

山初冬 秋の暮るる 山初冬 秋の暮るる  
 夕時雨 夕時雨 夕時雨 夕時雨  
 夜時雨 夜時雨 夜時雨 夜時雨  
 時雨暗陰 時雨暗陰 時雨暗陰 時雨暗陰  
 落葉 落葉 落葉 落葉  
 風 風 風 風  
 搞上落葉 搞上落葉 搞上落葉 搞上落葉

子林

落葉有声 落葉有声 落葉有声 落葉有声  
 庭草帶霜 庭草帶霜 庭草帶霜 庭草帶霜  
 嵐吹寒草 嵐吹寒草 嵐吹寒草 嵐吹寒草  
 田残鳥 田残鳥 田残鳥 田残鳥  
 夕残鳥 夕残鳥 夕残鳥 夕残鳥  
 寒松 寒松 寒松 寒松  
 朝寒松 朝寒松 朝寒松 朝寒松

丹鳥長書

寒樹霜 歳々冬の松の葉もあつたもつたもつたのふり  
 山 霜 あつたもつたもつたもつたのふり松のむら  
 竹 霜 葉のふりあつたもつたもつたのふり月頃  
 我のふりあつたもつたもつたのふり  
 河 氷 雪は行かぬ川の氷車もあつたもつたのふり  
 江 氷 始氷 雪のふりあつたもつたもつたのふり  
 田 氷 雪のふりあつたもつたもつたのふり

田

寒夜月 雪のふりあつたもつたもつたのふり  
 冬里月 雪のふりあつたもつたもつたのふり  
 浦冬月 雪のふりあつたもつたもつたのふり  
 河冬月 雪のふりあつたもつたもつたのふり  
 野 霰 雪のふりあつたもつたもつたのふり  
 拍 霰 雪のふりあつたもつたもつたのふり

紫 霰 ちかきちかきちかきちかきちかきちかきちかきちかきちかきちかき  
 海辺松雪 けしきせきと積りたまふゆきのちかきちかきちかきちかきちかき  
 遠山見雪 ちかき遠山の雪よりのちかきちかきちかきちかきちかき  
 松深雪 ちかき松のちかきちかきちかきちかきちかきちかきちかきちかき  
 禁中雪 ちかき禁中の雪よりのちかきちかきちかきちかきちかき  
 古寺雪 ちかき古寺の雪よりのちかきちかきちかきちかきちかき  
 依雪待人 ちかき雪よりのちかきちかきちかきちかきちかきちかきちかき  
 月前雪 ちかき月のちかきちかきちかきちかきちかきちかきちかきちかき  
 朝雪 ちかき朝のちかきちかきちかきちかきちかきちかきちかきちかき

雪松

夕雪 ちかき夕のちかきちかきちかきちかきちかきちかきちかきちかき  
一本  
 名町網代 ちかき名町のちかきちかきちかきちかきちかきちかきちかきちかき  
 網代 ちかき網代のちかきちかきちかきちかきちかきちかきちかきちかき  
并たぐり  
 鷹狩 ちかき鷹のちかきちかきちかきちかきちかきちかきちかきちかき  
狩衣  
 爐火 ちかき爐のちかきちかきちかきちかきちかきちかきちかきちかき  
おぢの親  
 爐火欲消 ちかき爐のちかきちかきちかきちかきちかきちかきちかきちかき



炭 竈 冬のねの枝をばらばら焚くまの煙をばらばらとて  
 遠近炭竈 風ふきまきおほいなるまの煙をばらばらとて  
 佛 名 とかよてまの仏のまの煙をばらばらとて  
 曉神樂 やま月夜のおまをばらばらとて  
 年内早梅 あつてまの梅のまの煙をばらばらとて  
 冬夕嵐 雲消くほお土のまの煙をばらばらとて  
 冬曉雲 けりやういのおまをばらばらとて

冬 夜 おとろの寝も較し青はく又ふつとあるまのま  
 冬 夜長 冬のおを清くくくくくくくくくくくくくくくくく  
 冬 風 萩原や枯葉ま〜まのまのまのまのまのまのまのま  
 冬 磯 子日〜磯のまのまのまのまのまのまのまのまのま  
 冬天象 冬のおを清くくくくくくくくくくくくくくくくく  
 冬地儀 冬のおを清くくくくくくくくくくくくくくくくく  
 冬植物 冬のおを清くくくくくくくくくくくくくくくくく  
 冬動物 冬のおを清くくくくくくくくくくくくくくくくく

初冬 檜の穂の白なるのさか

山初冬 雨の細なる林のさかた

初冬時雨 雨のさかたなる

時雨雲 雲のさかたなる

風こまのさかたなる

山時雨 雨のさかたなる

山時雨 葉のさかたなる

夜時雨 雨のさかたなる

河時雨 雨のさかたなる

雨のさかたなる

山

時雨易過 雨のさかたなる

渡時雨 雨のさかたなる

落葉有聲 葉のさかたなる

月前落葉 葉のさかたなる

橋上落葉 葉のさかたなる

落葉待風 風を待つ葉のさかたなる

峯落葉 葉のさかたなる

風前落葉 葉のさかたなる

落葉少 葉のさかたなる

落葉有聲 風を待つ葉のさかたなる

落葉送秋

秋葉一本 夕陽も暮れぬ秋の川よ舟もくさくさのさな

寒草

雪のうらみはくさくさの雪のうらみはくさくさの雪乃下と見え

庭寒草

心も庭のよもぎにたのしみはくさくさの雪乃下と見え

寒草霜

さむいさむい霜の雪のうらみはくさくさの雪乃下と見え

千鳥

松の木のうらみはくさくさの雪のうらみはくさくさの雪乃下と見え

浦千鳥

甲の梅の竹のうらみはくさくさの雪のうらみはくさくさの雪乃下と見え

水鳥

雲鳥水鳥のうらみはくさくさの雪のうらみはくさくさの雪乃下と見え

そのうらみはくさくさの雪のうらみはくさくさの雪乃下と見え

子林

瀬水鳥

名を川せの理本水鳥のうらみはくさくさの雪乃下と見え

河水鳥

を川の事おもむきはくさくさの雪のうらみはくさくさの雪乃下と見え

鴨

雪のうらみはくさくさの雪のうらみはくさくさの雪乃下と見え

沼水鳥

水鳥のうらみはくさくさの雪のうらみはくさくさの雪乃下と見え

海水鳥

水鳥のうらみはくさくさの雪のうらみはくさくさの雪乃下と見え

雪中残鳥

山鳥のうらみはくさくさの雪のうらみはくさくさの雪乃下と見え

山冬月

氷のうらみはくさくさの雪のうらみはくさくさの雪乃下と見え

冬月冴

氷のうらみはくさくさの雪のうらみはくさくさの雪乃下と見え

曉冬月

月のうらみはくさくさの雪のうらみはくさくさの雪乃下と見え

丹鳥長書

寒山曉月  
 篠上霰  
 草庵聞霰  
 屋上霰  
 雪  
 松雪

さのののちかきまのちかき月  
 さののちかきまのちかき  
 園まのちかきまのちかき  
 ああまのちかきまのちかき  
 福あまのちかきまのちかき  
 仁園のちかきまのちかき  
 ちかきまのちかきまのちかき  
 まのちかきまのちかきまのちかき  
 まのちかきまのちかきまのちかき  
 まのちかきまのちかきまのちかき

松

雪埋苔徑  
 松雪  
 深雪  
 網代  
 あり木  
 爐火

雪埋苔徑  
 松雪  
 深雪  
 網代  
 あり木  
 爐火

丹波書



爐火忘冬 ちまもくはなれぬかきくふあかぬのまゝに  
 曉爐火 冷しや初やの垣火をくはくはあまの電乃社  
 嶺炭竈 炭子の家の酒に風をあかすまゝの治の二信  
 禁中神樂 ちまもくはなれぬかきくふあかぬのまゝに  
 歳暮 ちまもくはなれぬかきくふあかぬのまゝに  
 夜歳暮 ちまもくはなれぬかきくふあかぬのまゝに  
 市歳暮 ちまもくはなれぬかきくふあかぬのまゝに  
 初冬 ちまもくはなれぬかきくふあかぬのまゝに

五松

閑居初冬 ちまもくはなれぬかきくふあかぬのまゝに  
 杜初冬 ちまもくはなれぬかきくふあかぬのまゝに  
 山初冬 ちまもくはなれぬかきくふあかぬのまゝに  
 枕上初冬 ちまもくはなれぬかきくふあかぬのまゝに  
 落葉 ちまもくはなれぬかきくふあかぬのまゝに  
 草霜 ちまもくはなれぬかきくふあかぬのまゝに







冬 鳥 新ぼたも飼のたの泣きもなす けしきもなすの物さ  
 冬 鳥 冬枯のよのいづれかきしむるはさのけしきもなす  
 秋 夕 夕陽のたのけしきもなす けしきもなすの物さ  
 春 漸 近 春のけしきもなすの物さ けしきもなすの物さ  
 歳 暮 歳暮のけしきもなすの物さ けしきもなすの物さ  
 春 巳 下 隣 春のけしきもなすの物さ けしきもなすの物さ  
 夜 時 雨 夜のけしきもなすの物さ けしきもなすの物さ  
 時 雨 雨のけしきもなすの物さ けしきもなすの物さ  
 冬 月 月のけしきもなすの物さ けしきもなすの物さ  
 薄 暮 十 鳥 薄暮のけしきもなすの物さ けしきもなすの物さ

冬 月 月のけしきもなすの物さ けしきもなすの物さ  
 薄 暮 十 鳥 薄暮のけしきもなすの物さ けしきもなすの物さ  
 浦 傳 十 鳥 浦傳のけしきもなすの物さ けしきもなすの物さ  
 夕 松 霜 夕松霜のけしきもなすの物さ けしきもなすの物さ  
 初 雪 初雪のけしきもなすの物さ けしきもなすの物さ  
 竹 雪 竹雪のけしきもなすの物さ けしきもなすの物さ  
 樵 路 雪 深 樵路雪深のけしきもなすの物さ けしきもなすの物さ  
 冬 風 冬風のけしきもなすの物さ けしきもなすの物さ  
 冬 山 冬山のけしきもなすの物さ けしきもなすの物さ

冬 鳥 葉をまじりてついでに梅のこぼれ花をまじりてついでに梅のこぼれ花を  
 冬 獣 冬を越えしうさぎのこぼれ花をまじりてついでに梅のこぼれ花を  
 曉千鳥 漁火の曉のこぼれ花をまじりてついでに梅のこぼれ花を  
 爐 火 冬を越えしうさぎのこぼれ花をまじりてついでに梅のこぼれ花を  
 年欲暮 冬を越えしうさぎのこぼれ花をまじりてついでに梅のこぼれ花を  
 歳暮雪 冬を越えしうさぎのこぼれ花をまじりてついでに梅のこぼれ花を  
 時 雨 冬を越えしうさぎのこぼれ花をまじりてついでに梅のこぼれ花を  
 月前落葉 冬を越えしうさぎのこぼれ花をまじりてついでに梅のこぼれ花を

子社

冬 風 冬を越えしうさぎのこぼれ花をまじりてついでに梅のこぼれ花を  
 寒草霜 冬を越えしうさぎのこぼれ花をまじりてついでに梅のこぼれ花を  
 月前寒艸 冬を越えしうさぎのこぼれ花をまじりてついでに梅のこぼれ花を  
 積 雪 冬を越えしうさぎのこぼれ花をまじりてついでに梅のこぼれ花を  
 雪似白雲 冬を越えしうさぎのこぼれ花をまじりてついでに梅のこぼれ花を  
 駅路雪 冬を越えしうさぎのこぼれ花をまじりてついでに梅のこぼれ花を  
 岑樹雪 冬を越えしうさぎのこぼれ花をまじりてついでに梅のこぼれ花を  
 常盤木雪 冬を越えしうさぎのこぼれ花をまじりてついでに梅のこぼれ花を

江 雪 氷一本

曉 天 雪 けしの曉

枯 野 霜 しの野

嶺 時 雨 しの嶺

冬 朝 雨 しの朝

遠 山 炭 竈 しの山

惜 歲 暮 しの暮

歲 暮 雪 しの雪

春 之 花

春 之 花

歲 暮 懷 旧 しの暮

時 雨 しの雨

江 寒 芦 しの江

橋 上 霜 しの橋

月 前 雪 しの月

松 雪 しの松

冬 月 しの冬

落 葉 嵐 しの葉

落 葉 浮 水 しの葉

水 之 氷

夕雪 *ゆき* の *ふり* 降る *ゆき* の *ふり* 降る *ゆき* の *ふり* 降る  
 河千鳥 *かぜ* の *よ* 吹く *かぜ* の *よ* 吹く *かぜ* の *よ* 吹く  
 鷹狩 *たか* の *ゆ* 追ふ *たか* の *ゆ* 追ふ *たか* の *ゆ* 追ふ  
 冬犬 *ふゆ* の *いぬ* 吠く *ふゆ* の *いぬ* 吠く *ふゆ* の *いぬ* 吠く  
 島雪 *しま* の *ゆき* 降る *しま* の *ゆき* 降る *しま* の *ゆき* 降る  
 渡時雨 *わた* の *とき* 雨 *わた* の *とき* 雨 *わた* の *とき* 雨  
 駅路雪 *えき* の *ぢ* 道 *えき* の *ぢ* 道 *えき* の *ぢ* 道  
 夜埋火 *よ* の *う* 埋 *よ* の *う* 埋 *よ* の *う* 埋  
 歳暮 *とし* の *と* 暮 *とし* の *と* 暮 *とし* の *と* 暮  
 時雨暗 *とき* の *あ* 雨 *とき* の *あ* 雨 *とき* の *あ* 雨

浦冬月 *うら* の *ふゆ* 月 *うら* の *ふゆ* 月 *うら* の *ふゆ* 月  
 遠樹深雪 *とほ* の *き* 樹 *とほ* の *き* 樹 *とほ* の *き* 樹  
 冬月 *ふゆ* の *つき* 月 *ふゆ* の *つき* 月 *ふゆ* の *つき* 月  
 深夜雪 *ふか* の *よ* 夜 *ふか* の *よ* 夜 *ふか* の *よ* 夜  
 月照寒艸 *つき* の *あ* 照 *つき* の *あ* 照 *つき* の *あ* 照  
 海辺冬鶴 *うみ* の *へ* 辺 *うみ* の *へ* 辺 *うみ* の *へ* 辺  
 閑中雪 *い* の *ち* 中 *い* の *ち* 中 *い* の *ち* 中  
 枯野 *か* の *の* 野 *か* の *の* 野 *か* の *の* 野  
 庭雪 *にわ* の *ゆき* 雪 *にわ* の *ゆき* 雪 *にわ* の *ゆき* 雪  
 佛名 *ぶつ* の *な* 名 *ぶつ* の *な* 名 *ぶつ* の *な* 名

禁中雪 冬の雪よしのの昔の詠とあてて見ゆ  
 初冬時雨 定まらぬ心もさむしむ  
 雪朝眺望 いづれか一回一詠の  
 落葉霜 くよしの楮の葉の  
 山初冬 神奈月村の  
 山館冬至 地味も  
 枯蘆 ちよしの入りの  
 歳暮洞氷 山川谷の  
 冬雲 白妙  
 千鳥

千鳥

浅雪 冬  
 落葉 冬  
 霰 冬  
 向爐火 冬  
 千鳥 冬  
 老送年 冬

千鳥

丹雀書

五ノ四十三止

子抄

